

# 新城市民病院 研修レポート

名古屋第二赤十字病院 初期研修医

新城市民病院で2週間の地域医療研修させて頂きました。豊橋に父の実家があり、鳳来寺や長篠の合戦場など新城は私にとって小さい頃からよく訪れる場所で親近感がありました。医師や病院、そして患者さんを取り囲む環境がめまぐるしく変わる中、今後どのような医師が地域において必要とされるのか、そして患者さんにとって必要なことは何か、新城市民病院での研修を通じて学ばせて頂けたように思います。

まず、地域研修を通じて、院外の施設の見学や訪問看護・リハビリ・診療所を見学させて頂きました。家族との信頼関係を築いる看護師さんや、一人一々の家族背景や患者の希望をふまえながらリハビリの内容を検討している理学療法士の方々を見て、医学的な問題だけでなく、その患者さん個人背景や家族の要望を把握することも信頼関係にとって重要なのだと、実際の生活に触れることで想像できるようになるのではと感じました。介護老人保健施設では介護施設ごとの違いや、その施設のあるべき姿や問題点など様々なお話を伺うことができました。また患者さんの状態ごとにエリアを変えるなど、共同生活を行なうにあたって、様々な工夫をされているのが印象的でした。

病院での救急車対応や外来初診では、カンファで総合内科の先生方に一つ一つの症例のフィードバックを頂けてとても勉強になりました。幅広い領域の疾患に患者さんに個人的な背景を考慮しながら対応されている先生方の姿に感銘を受けました。また、毎日の朝のカンファでは様々な領域のテーマを勉強させて頂きました。このように皆で色んな分野の文献を読み合うという勉強会はとても有益なように感じました。また、先生一人一々がこの地域の人たちの診療を担っているという責任感に溢れているように感じました。

話は少し変わりますが、今日、少子高齢化社会が急速に進み、社会保険費の税収に占める割合が急速に伸びる中、保険を廃止する事はとてもハードルが高く、そういった状況で医療を「国民全員が同一のサービスを同一の値段で」存続させる為には、欧州でよくある「フリーアクセスの廃止 or 強い制限」と「より本格的なかかりつけ医の導入」がカギになるのと思います。プライマリケアを重視したスーパーローテートの導入や昨今の厚労省による総合専門医創設をめぐる論議も、プライマリケアのできる医師の育成、専門医を診療報酬により利用しやすいようにし医療を誘導する事を目指すといった視点から見ると、納得できるもののように思われます。

今回の研修を通じて、今後ますますプライマリケアのできる医師が求められ、また患者さんもそれを求めるだろうと感じました。自分も医師として患者の期待や要望に応えられるように、今回新城市民病院で学ばせて頂いたことを活かしていきたいと思います。最後になりましたが、指導下さいました新城市民病院、介護老人保険施設サマリヤの丘の先生方、看護師の方々、スタッフの皆様、そして作手診療所、新城市訪問介護ステーションのスタッフの皆様に厚くお礼申し上げます。ありがとうございました。